



青空に映えるこののぼり  
皆さまにとって、

この5月が健やかで清々しい日々となりますように



発行 / 株式会社 電建

〒660-0805

兵庫県尼崎市西長洲町1丁目2-45

TEL: 06-6489-2222

FAX: 06-6489-2223

WEB: <http://m-denken.com>

With your company

# でんけん 倶楽部 NEWS

2026.5 第 140 刊

## 今月の 工事あつかい



工事部  
佐藤 友裕

### コンプレッサーが動かない！

先日、大阪市内にある食品加工会社から電話があり、コンプレッサー回路のブレーカーが時々切れるという相談を受けました。  
急いで確認に行くと、コンプレッサーに付いているマグネット(電磁開閉器)という機器に異常がある事が分かったのですが、当日は材料も人手でできず、とりあえず動くようになっていたので現場を離れて様子を見て貰う事にし、すぐに材料手配をしました。

経過を聞くようにしていたある日の朝、「全く動かなくなっていました」という連絡が入りました。しかし、材料の納品はまだ。工事部のメンバーは全員離れた場所で作業をしている状況。なんと、中古品であれば交換可能な機器があるとのこと。急遽交換に行つて貰い、その日の昼前には復旧させることができました。

建築業界は高い専門性を必要とする業種が多い為、自社だけで完結できない工事が頻繁に発生します。その為、様々な業種の会社と連携を取つて一つの工事を完成させる必要があります。繋がりが非常に深いという特徴があります。  
電建でも、どうすればお客様の要望にお応えできるかを常に考え、緊急時でも最善の一手を打っています。



## 電建 diary



工事事務  
中安 春奈

### 企業プレゼン

4月某日、大阪府某市の児童養護施設で子供達へ向けに企業プレゼンを行いました。弊社の仕事内容と、仕事観・人生観や各自の気付き等を発表しました。仕事にも人生にも前向きになれず、泣いていた自分が、どのようにして向き合っていたのかという経緯も話しました。

児童養護施設の子供達は18歳になると施設を出ていかなければなりません。社会へ出ていく子供達が明るい未来を築くことがとても大切だと考えています。また、心を育む中の1つに、世の中の成り立ちを知り、経験者から働くことで得られる喜びや学び、人として正しい生き方を知ることもあると考えています。  
SNS時代、色んな情報が取れますが二元論等の偏った見方も多く、これでは情報の取り方の違いで子供の価値観が決まってしまう可能性があります。大人と子供がリアルに交流でき、生き方や働き方について楽しく話ができる場を作りたいと感じました。



△

### 社長の独り言

松本晃幸



### 本当の感謝

現在、経営者の勉強会などで学ばせていただいても、共通するキーワードは感謝です。感謝するといっても、できていそうで出来ていないと感じています。例えば素晴らしい講座を受講して、講師の方に感謝することは当然なのですが、そのきっかけをくれたKさん、Kさんを紹介してくれたMさんに、Mさんと出会った会に、その会に誘ってくれたA氏に・・・とその感謝はすべて、人や出来事、物のご縁であります。数年前に私はルーツをたどる旅に行きました。自分が生まれるきっかけをくれた両親から先祖様まで、その命を支えてくださったすべての食事(生き物)であった人、出来事までが感謝の対象となることに気が付きました。それらが無ければ、間違いなく今の自分が存在していません。また、その方々の「良心」と真剣に生きた魂のおかげだと気が付いたのです。

私は時々、街路樹を眺めていて、涙が出るがあります。人間によって、連れてこられ、そこで生きていくことを余儀なくされた生き物であるその植物は一切の文句を言うことなく、そこでいきいきと、一歩も動くことなく、環境を受け入れて、全力で真剣に生きています。おそらく世の中のどんな動物でも間違いなく必死で「ど真剣」に生きています。常に「ど真剣」、誰にも負けない努力をしていると言えますか?と街路樹に聞かれている気がしたのです。

先日、某企業経営者の経営体験発表で「誰にも負けない努力をして

経営理念

夢への挑戦

私達は電気工事を通じて日本経済の発展を支え  
関わる全ての人々の愛が溢れる社会を実現します

## 会社概要

社名	株式会社電建
所在地	〒660-0805 尼崎市西長洲町1丁目2-45
TEL	06-6489-2222
FAX	06-6489-2223
E-mail	info@m-denken.com
URL	<a href="https://www.m-denken.com">https://www.m-denken.com</a>
事業内容	電気設備工事、空調・換気設備、通信関連設備 防犯・防災設備、その他電気機器販売



ない努力をしているわが社の社員」と仰っていました。凄いですね。  
私達、電建はまだ「誰にも負けない努力をしている」とは言えません。もともととやれると信じて少しの努力を積み重ねるというトレーニングを私も社員さんも行っています。私は、その一つに毎晩寝る前、本を最低1ページ読む。就寝時間がどんなに遅くなっても決めていきます。帰りが朝方になってもベッドサイドの本を・・・朝は一番に会社に行き、神棚の水を替え、参拝し、新聞を読んで、メールをチェック、そして書籍を1ページ以上読む。これだけで数十分の間がかかります。これらのルーティンは毎日となるとなかなかです。しかし物の見方が変わりました。  
ところで日本の作法の事ですが、儒教は思想や学問ではなく、作法として入ってきた事がベースになっていると最近学びました。目上の人を敬う、挨拶をする、返事をする、ウソをつかない、人の為につくす、良いことを想像する、最後は万物(すべての人や物)に感謝する。感謝は習慣だと思えます。これを忘れないために神棚や神社仏閣があるのだと思えます。神とは万物の事を指し、それらの根本は自分の心の中にあるのだと最近思っています。つまり参拝は自分の心にしていくのですね。最後は自分に感謝。まだまだ精進の日々が続きます。



工事部 國重幸太郎

電気と熱の関係

工場や事務所の電気設備において、電流が流れると配線や機器には必ず熱が発生します。これは正常なことですが、電気を使いすぎたり、長年の使用で接続部分が緩んだりすると、逃げ場を失った熱が異常発熱となり、機械の故障や電気火災といった重大なトラブルを引き起こします。

特に注意したいのが、ブレーカー配線やコンセントの差し込み口です。これらが触れないほど熱くなっている場合は、内部で断線や接触不良が起きているサインかもしれません。また、制御盤やキュービクルの周囲に資材を積み上げていると、放熱が妨げられ、中の精密機器が熱でダウンしてしまったりスクリューもあ

ります。日頃から設備の周囲を整理整頓し、管理することが企業の安全と安定した稼働を守る第一歩になります。



電気工事士奮闘記



工事部 松本雄大

設備を守るための塗装メンテナンス

このたび、京都府のお客様のキュービクル内部機器の更新工事にあわせ、外装の塗装工事を実施いたしました。キュービクルは内部機器だけでなく、本体外装の維持管理も重要です。

外装が劣化するとサビや隙間が発生し、雨水の浸入による漏電や機器故障、停電事故につながる恐れがあります。

今回の工事では、機器交換後に塗装を行うことで、防水性と耐久性を向上させ、設備全体の安全性を高めました。今後も安心してご使用いただけるよう、適切な設備保全をご提案してまいります。



今月のちよん一言



総務経理部 佐藤陽香

求人サイト「Wantedy」

この度求人サイト「Wantedy」にて、電気工事士および現場管理技士の募集を開始いたしました。

Wantedyは、従来の求人サイトとは異なり、条件面だけでなく「私たちが何を大切に働いているか」を自分たちの言葉で伝えることができるプラットフォームです。会社ページのほかに電建社員1人1人のプロフィールページもあり、そこにはこれまでのストーリーや今どんな目標を持って仕事をしているか、など自身で更新できるサイトとなっております。工事部メンバーに限らず事務員のメンバーもそれぞれページを更新しておりますのでよろしければ是非ご覧ください。

このサイトを切っ掛けに電建の理念に共感する新たなメンバーに出会えることを楽しみにしております。



現場管理技士



電気工事士



電建の風



工事部 國重幸太郎

ハイタッチ

朝礼の新しい取り組みとして「ハイタッチ」を導入しました。

ルールはとてもシンプルで、笑顔で相手の目を見て「ありがとうございます！」と声をかけながら両手でハイタッチを行います。

最初は少し照れくささもありましたが、回数を重ねるうちに自然と笑顔が増え、朝の雰囲気明るくなってきました。

この取り組みを通じて、普段あまり関わる機会の少ないメンバーともコミュニケーションが生まれ、職場全体の一体感が高まっていると感じています。

また、「ありがとう」を言葉にして伝えることで、普段からお互いに感謝を伝える意識も少しずつ広がってききました。

今後もうこうした小さな工夫を積み重ねながら、働きやすく前向きな職場づくりを目指していきます。



笑顔盛り



総務経理部 中島依里

みんなで分けるあたたかさ

電建には、いただいたものをみんなで等分するという社風があります。

お客様から頂戴したお菓子はもちろん、展示会でいただいた文具や、お歳暮のお酒なども、できるだけ全員で分け合います。入社当初は、「社長がいただいたものなら、社長がもらえばいいのに」と思っていました。しかし、その考えは大きく変わりました。単純に分けてもらって嬉しかったのはもちろん、それと同時にあたたかさを感じたのを覚えています。

社長は「個人としてはではなく、会社としていただいたものだから、みんなで分けるのが当然」と話されています。その言葉の通り、いただき物を分け合うことは、電建の大切な価値観の一つです。

こうした業務外にも、会社としての在り方や想いが表れているのだと感じます。分け合っただけで量が少なくなったとしても、いつもより美味しく感じるから不思議ですね。こっそり一人占めしようとする我が子達にも分け合う素晴らしさを学んでいってほしいものです。



電建 photo studio

毎朝社員全員で社内清掃！社屋を大切に。

毎週の会議で社内進捗を共有中